

わたらの健康とくすり

第193号

Q. 薄いタイプと厚みのあるタイプがありますね？

A. 薄いタイプは「テープ剤」または「プラスター剤」と呼ばれており、ほとんど水を含まない基剤を用いる貼り薬で、**皮膚への密着度が高いためはがれにくい**という特徴があります。厚みがあるタイプは「パップ剤」と呼ばれており、水を含む基剤を使っています。**厚みがある分はがれやすく、貼る部位によってはテープなどで押さえる必要があります。**

Q. 冷感タイプと温感タイプがあるようですが、違いは何ですか？

A. どちらも皮膚の感覚を刺激して心地よさを感じさせます。冷感タイプは、l-メントールやdl-カンフルなどによる**冷感刺激作用で冷たく感じます**。温感タイプにはトウガラシエキスやノニル酸ワニルリアミドなどが含まれており、**温感刺激作用で温かく感じます**。ただし、パップ剤は水分を含むため、温感・冷感どちらも貼った直後は気化作用により皮膚表面温度は低下します。

温感タイプは、はがした後もしばらくは温感刺激作用が残りますので、**入浴の30～60分以上前にはがすようにしてください**。また、**入浴後は皮膚の温度が落ち着くまで（30分くらい）、貼らないようにしてください**。

Q. 冷感タイプと温感タイプの使い分けを教えてください。

A. どちらも効能効果に大きな違いはないので、貼っていて心地の良いほうを選んでください。一般的に冷感タイプは患部が熱をもっているような**打ち身・捻挫などの急性期の症状**に使用され、温感タイプは熱が引いても痛みが残っている**慢性期の症状**に使用されることが多いようです。患部が熱をもっているときには、温感タイプは使用しないほうがよいでしょう。

Q. 使用する上での注意点を教えてください。

A. 湿布の成分や種類によって注意点がありますが、どの湿布を使う時でも、次に挙げる点にはご注意ください。

- ・傷口、粘膜、湿疹、または発疹のあるところには貼らないでください。
- ・汗をかいたり、皮膚がぬれているときは、よくふき取ってから貼ってください。
- ・貼ったところがかぶれたり、かゆみがでたら、使用を中止してください。
- ・お薬によっては、光線過敏症や喘息を誘発する場合がありますので、**医師または薬剤師からの説明を受け、注意書きをよく読んで正しくお使いください**。安易に他人に譲らないようにしてください。

執筆薬剤師 岡部 葉子



今月の内容

- ・HTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス-1型）について
- ・インフルエンザをうつさないために
- ・湿布薬について

シークワサー（ミカン科）

奄美大島以南、沖縄に分布する野生のミカンで、高さ3～6mの常緑樹です。果実は冬に黄色く熟し、直径5cmくらいです。熟せば甘くなりますが、通常は青い時に収穫して果汁をとり、飲用や調味料に使います。かつては沖縄で消費されるだけでしたが、果汁に血糖値、血圧を下げる効果があることが分かり、今では全国に知られるようになりました。

写真・文 指田 豊

2012年2月発行

発行者 八王子薬剤センター 茂木 徹

東京都八王子市館町1097 電話 042-666-0931

協力 八王子薬剤師会

HTLV-1 (ヒトT細胞白血病ウイルス-1型) について

「HTLV-1」というウイルスを原因とした病気をご存じでしょうか。

「HTLV-1」とは「ヒトT細胞白血病ウイルス-1型」のことです。このウイルスに感染してもほとんどの人は無症状で、普通に日常生活を送ることができます。しかし、一部の人々が「成人T細胞白血病(ATL)」や「HTLV-1関連脊髄症(HAM/TSP)」、 「HTLV-1ぶどう膜炎(HU)」を発症することがあります。

主な感染経路としては、母子感染(主に母乳による)、性交渉による感染(主に男性から女性)、輸血による感染があります。インフルエンザのような強力な感染力はありませんので、日常生活で感染する心配はありません。ただし、血液が付着したものを共用すると感染する可能性があります。予防するには、感染経路に注意することが重要です。母子感染の場合、母乳に含まれるHTLV-1に感染したTリンパ球が原因となります。そのため、育児用ミルクの使用、短期間の授乳などが、対策として挙げられています。HTLV-1に感染しているかどうかを調べるためのHTLV-1抗体検査は、平成23年4月から妊婦検診の標準的検査項目に追加され、母子感染対策が進んでいます。

「HTLV-1」に関する更に詳しい情報は、厚生労働省のホームページ「HTLV-1(ヒトT細胞白血病ウイルス)に関する情報」や厚生労働省科学研究費補助金 がん臨床研究事業によって運営されている「HTLV-1情報サービス」で公開されていますのでそちらもご覧ください。



厚生労働省
「HTLV-1 (ヒトT細胞白血病ウイルス)
に関する情報」
(<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou29/>)



厚生労働省科学研究費補助金
がん臨床研究事業運営
「HTLV-1情報サービス」
(<http://www.htlv1joho.org/index.html>)

執筆薬剤師 岡田 寛征

ちょっとお耳を…… インフルエンザをうつさないために

インフルエンザは、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)で五類感染症に分類される感染症で、該当患者数は指定された医療機関(全国約5,000ヶ所の内科・小児科医療機関等)から毎週、年齢群別患者数が報告されています。国立感染症研究所の分析によると、2012年2月2日現在、検出されたインフルエンザウイルスの約9割はA香港型で、A香港型が主流の流行は5年ぶりということです。

もしも、インフルエンザに罹ってしまったら他人にうつさないための対策をとりましょう。個人差はありますが、インフルエンザの症状が現れてから1~7日間は、インフルエンザウイルスを体外に排出して周囲の人にうつしてしまう可能性があり、配慮が必要です。最近の調査報告では、衣服に付着したインフルエンザウイルスの感染力は、少なくとも20分間持続することが確認されたそうです。マスクを着用し、周囲にウイルスを拡散させないようにしましょう。また、1時間に1回程度は部屋の換気を行いましょう。

最近では早期に抗インフルエンザウイルス薬を服用することが多くなり、発熱期間が1~2日短縮されています。しかし、解熱後も体内からウイルスがいなくなるわけではありませので、薬は指示通りに飲み続けましょう。また、解熱したからとすぐに出勤するのは、周囲への配慮を欠く行動です。医師とも相談し、解熱後2日程度は自宅療養をしましょう。

学校や保育所では、集団感染を防ぐために学級閉鎖等の措置が取られることもあり、インフルエンザ罹患後の出席停止期間も設けられています。学校保健安全衛生法では、解熱した後2日を経過するまで(ただし病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるときは、この限りではない)、また、厚生労働省の「保育所における感染症対策ガイドライン」では、症状が始まった日から5日以内に症状が無くなった場合は、症状が始まった日から7日目まで、または解熱した後3日を経過するまでが登園再開までの目安となっています。

まずは、インフルエンザに罹らないよう、予防に努めましょう。
予防対策については第191号もご覧ください。

執筆薬剤師 曾木 明子